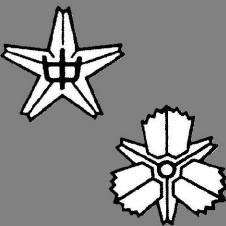


	発行所 〒921-8517 金沢市泉野出町 3 丁目10-10 石川県立金沢泉丘高校内 一 泉 同 窓 会 電 話 (076) 242-0211 F A X (076) 216-5656 2010. 3. 31. 発行 E-mail : issen.kriz@hotmail.com	
---	--	---

母校は平成25年に創立120周年を迎える。この節目の年を有意義なものにするため、昨21年夏に早々と一泉創立120周年記念事業準備委員会を立ち上げた。各界各層で活躍する同窓会員18人を委嘱、9月に初会合を開催して委員長に蚊谷八郎氏（一泉同窓会会長、泉丘14期）を選出、12月末には第2回会合を開いた＝写真＝。これまでに「後輩生徒たちが求めるものを、可能な範囲で実現していこう」とする大きな方向性が確認された。

委員長に蚊谷同窓会会長選ぶ

120周年への取り組みは5月16日の21年度一泉同窓会代表委員会に提案された。準備委員会の設置、委員の選任などすべてが同窓会役員会に一任された。役員会では7月中旬に候補者に委員就任の委嘱状を発送、8月末までに18人全員の承諾を得て9月26日の初会合にこぎつけた。さらに、ここまでの経過を10月15日の創立116周年記念一泉同窓会総会で発表、同意を得た。

母校で開いた初会合では記念事業準備委の設立趣旨・目的を相互理解、22年度末までに記念事業の内容を決定するため、3カ月に一度のペースで会合を重ねることを決めた。またこの日、役員を選出を行い、委員長に蚊谷

平成25年の創立120周年に向け 記念事業準備委スタート 各界各層から18人を委嘱



八郎一泉同窓会会長、副委員長に水谷 昭、泉屋利郎、清水義博の三氏を選んだ。このうち泉屋氏を代表副委員長とし、事務局長には中山 一郎・一泉同窓会事務局長が就いた。

12月29日の第2回会合では少し踏み込んだ協議が行われた。泉丘高校教頭の菱田浩章委

員（泉丘25期）から「母校内にも準備委を設けて110周年同様、著名な講師を迎えての記念講演会を開催したい」との発表があり、各委員からは、景気低迷の中での大掛かりな寄付金集めは難しい。インターネット・ライブラリーで図書館の充実を図ったり、視聴覚教室の整備も一考だ一との意見が出た。

この後、新年度早々の4月中に第3回目の会合を予定している。

《準備委員会の役員・委員名》

◇委員長 蚊谷八郎（泉丘14期）◇代表副委員長 泉屋利郎（同）◇副委員長 水谷 昭（7期）、清水義博（22期）◇事務局長 中山一郎（10期）◇委員 若林茂樹（同）、徳田寿秋（12期）、福田 裕（18期）、岡 能久（20期）、宮野 敬（24期）、菱田浩章（25期）、北川 真（27期）、山上公介（30期）、松本 大（33期）、石山直哉（35期）、戸上浩一（38期）、苗代明彦（通信16期）、浅田秀雄（泉丘高校校長）



730人が集い一泉の絆強める

創立116周年祝って総会・懇親会

創立116周年記念、平成21年度の一泉同窓会総会・懇親会が10月15日、金沢駅前のホテル日航金沢で開かれ、出席した約730人が一中・泉丘同窓生の絆をさらに強め合った。

総会に先立ち母校生徒の部活動発表が行われ、合唱部が「大地讃頌」など4曲を披露した。続く総会では蚊谷八郎会長（泉丘14期）が「各種行事を通じ同窓生の絆の高まりを痛感しているが、今総会も大盛況となった」と主幹事の泉丘28期に感謝の言葉を送った。また、今春就任した浅田秀雄校長は祝辞の後、進学状況や部活動の成績など母校の現況を報告した。続いて中山一郎事務局長（同10期）が4年後に迎える創立120周年に備え、「記念事業準備委員会」を9月に発足させたことについて説明した。

懇親会は主幹事期の吉藤徹君と五十嵐佳鶴子さんが司会を務め、水谷昭副会長（同7期）の乾杯の音頭で始まった＝写真右上＝。友人や先輩、後輩とのしばしの歓談の後、酒宴の場にマッチするフラメンコクラブ「ルナーレス」の踊り＝写真右下＝、28期のバンド「ZUN」の生演奏で一段と賑わいを増した。やがて元応援団員による旗振りで応援歌を大合唱、一中・泉丘の両校歌ではステージが有志で溢れるほど＝写真左＝。盛り上がりが高潮に達した所で幹事の引継ぎが行われ、上田幸世開催実行委員長があいさつ、来年の29期・川北哲実行委員長が「頑張ります」と誓いの言葉を述べた。

最後に清水義博副会長（同22期）の方歳三唱で名残を惜しんでの閉会となった。

8500人の霊を慰める

平成21年度の一泉同窓会物故者慰霊祭が創立記念日の10月15日午後、母校の厳霜碑前で行われた。明治26年の創立以来116年、この間に亡くなった一中・泉丘の卒業生と教職員ら約8千500人の霊を慰めた＝写真＝。

蚊谷八郎会長（泉丘14期）、渋谷亮治元会長（一中54期）、今年の主幹事・泉丘28期の高田直人代表ら同窓生26人と浅田秀雄校長ら学校関係者5人の計31人が出席、石浦神社の長谷勝俊宮司の祝詞奏上のあと全員が順に玉

ぐしを捧げた。参列者の最長老は中川松雄さんで一中43



期の91歳。続く松本忠男さんと宮本敏之さんは3期下の同46期。それぞれが太平洋戦争の殉難者や亡き師、亡き友に思いをはせて祈りを捧げた。

地区同窓会だより

歌って笑って楽しく交流

盛り上がった関西一泉総会

関西一泉同窓会の第29回（平成21年度）総会が6月6日午後、大阪市中央区城見1丁の松下IMPビル26階「パノラマスカイレストラン アサヒ」で開かれ、91人が出席して同窓の絆を深めた。

総会では家族の祝い事でやむなく欠席の片瀬貴文会長（一中55期）に代わって辻本初枝副会長（泉丘4期）があいさつ、続いて蚊谷八郎本部長（同14期）が盛会のお祝いを述べ、今春就任した浅田秀雄校長は母校の現況を報告した。このほか金沢からは恩師の石田毅士郎先生（泉丘14期）、普神貴行副会長（同2期）、泉屋利郎副会長（同14期）、中山一郎事務局長（同10期）が出席した。

懇親の宴は太田忠夫さん（一中55期）の乾杯の音頭で始まった。池田香織さん（泉丘44期）がメイン司会、杉谷理紗さんと藤井啓司君（いずれも京大大学院生で同57期）がサブ司会を務めて楽しい懇談の中に歌あり、笑いあり、故郷の味を集めたラッキープレゼントありで盛り上がり、2時間余があっという間に過ぎた。最後に一中と泉丘の両校歌を大合



唱＝写真＝、新しく副会長に選ばれた宮本晴江さん（同13期）の中締めで名残を惜しんでの閉会となった。帰りには片瀬会長が取り寄せた松任の「圓八あんころ」が全員に贈られた。

今年も二次会は松尾ゆきえさん（通信12期）経営の北新地の「珠洲」で行われ、約40人が集まってもう一度盛り上がった。

関東一泉、過去最高の351人

故郷懐かしみ思い出語り合う

第51回、平成21年度の関東一泉同窓会総会・懇親会が10月24日、東京・大手町のサンケイプラザ4階ホールで過去最高の351人が出席して開かれた。今年のテーマは「再会！ひろげよう一泉の和、ふかめよう一泉の絆」。関東在住の一中・泉丘の同窓生が世代を超えて交流の輪を広め、さらに絆を深め合った。金沢から蚊谷八郎会長（泉丘14期）ら本部役員6人と浅田秀雄校長の7人が出席した。



総会は北川秀二泉丘30期代表幹事の開会の辞で幕を開けた。関東の浅井敏郎会長（一中50期）と蚊谷本部長が共に過去最高の出席者を集めた30期に感謝の言葉を送り、浅田校長が文武両道に励む後輩たちの様子を報告した。

懇親会は泉屋利郎本部長（泉丘14期）の乾杯の音頭で始まった。舞台中央のスクリーンでは第一部の映像プログラムが映し出された。台湾でダムを建設した八田與一氏（一中11期）の偉業や金沢での一泉同窓会の様子、後輩たちの部活動の練習風景が紹介された。続く第二部は在校生のアンケートを基にした3択クイズ。今春卒業の泉丘61期生も一中の大先輩と一緒に考えて、当たり外れに一喜一憂した。思い出を語り合い、故郷を懐かしみ、新たな発見と出会いのうちに2時間余があっという間に過ぎた。一中・泉丘の両校歌を大合唱＝写真＝、31期への幹事引継ぎがあり、最後に糸多宗人副会長（同54期）が閉会のあいさつをして名残を惜しみながら散会した。



21回目の三馬一泉同志会開く

三馬一泉同志会の第21回総会が6月25日、金沢市野町4丁目の割烹「むとう」で8人が出席して開かれた＝写真＝。

初めに角信平会長（泉丘5期）が「残念ながら年々参加者が減っているが、先輩が築いてくれた地域同窓生の和を守り続けていこう」とあいさつ、今年も元気に出席された平松昌司さん（一中49期）の乾杯の音頭で酒宴に入った。すぐに地域の話や現役時代の仕事のことなどで話しに花が咲いたが、中でも北國新聞社専務やテレビ金沢の社長・会長を務められた北実さん（泉丘12期）の話にしばし聞き入った。最後に田中一郎副会長（同8期）が「来年も元気に集まろう」と中締めして散会した。（北島敏男＝同8期・記）

光が丘一泉会が3回目の集い

「最も身近で気楽な同窓の集い」として発足した光が丘一泉会（9・9会）の3回目の会合が9月9日、金沢国際ホテルで12人が参加して開かれた＝写真＝。

最年長の石田豊さん（一中51期）の乾杯の音頭で始まり、中野他喜夫さん（同52期）の中締めのあいさつまで約2時間半、会の趣旨

どおり筋書きのない進行で歓談は多岐にわたり瞬く間に過ぎた。慣例となった一中・泉丘の校歌斉唱後、来期の再会を楽しみに散会した。（畠村邦夫＝泉丘11期・記）



トピックス 金城大学短期大学部の加藤博講師（環境学）が9月5日、京都市で開かれた「人間・植物関係学会」で、「旧制金沢一中名残のモミの樹保存運動に見る巨木と人間の関係性」と題して発表した。

それによると、都市の中の巨木は開発の妨げとしてどんどん切られている。伐採を逃れるのは幹にしめ縄が張られたり、根元に祠がある信仰対象の木で、切

一中名残のモミの樹テーマに 加藤講師（金城）が学会発表

り倒すと祟りがあると伝えられるものばかり。

本多通りの中一のモミの樹は同窓生の熱い思いで保存されているもので、街路樹として管理する市や警察署への苦情もない。関係する人々の思いの丈によって、扱われ方や保存のされ方が大きく異なることを「身」をもって証明する事例といえる一と結んでいる。

カタニ産業株式会社

代表取締役社長 蚊谷 八郎（一泉同窓会会長）
（泉丘14期）

本社 〒920-0910 石川県金沢市下新町6番33号
TEL (076) 263-6111 FAX (076) 222-3433



北菱電興株式会社

代表取締役会長 小倉周一郎（前・一泉同窓会会長）
（泉丘7期）
代表取締役社長 小倉 一郎（泉丘44期）
専務取締役 水谷 昭（一泉同窓会副会長）
（泉丘7期）

本社 〒920-0381 金沢市古府3丁目12番地
TEL (076) 269-8500代 FAX (076) 269-8501

町勢発展めざし同窓生活躍

野々市一泉、総会で確認

平成21年の野々市一泉同窓会が10月2日、同町の情報交流館カメリア2階のホールで開かれた。2年に1度の開催で61人が出席したが、今回は一中出身者が見えず、変わって泉丘50期代の若い会員が多く時代の流れを感じさせた。

田多野和彦事務局長(15期)が司会、総会で魚野孝次郎会長(5期)は「会員各位が各所で町勢発展のため活躍しており、うれしく思う」とあいさつ、母校の浅田秀雄校長が「生徒たちは心身一如の校是と文武両道の伝統の下に頑張っている。将来の日本を背負っていく骨太の人間に成長してくれることだろう」と後輩たちの様子を報告した。

泉丘の校歌斉唱の後、中村伸一郎副会長(4期)の乾杯の音頭で懇親会が始まった。地域を同じくする先輩と後輩、級友同士の久し振りの顔合わせに話が弾み、あっという間に1時間半が過ぎ有志の旗振りで応援歌を数曲歌い、最年長の石田祐夫さん(一高)の万歳三唱＝写真＝で名残を惜しみながら散会した。

総会・懇親会に先立って安田彦三前町長(9期)が「3期12年の町政をふりかえって」と題して講演、金沢市との合併問題では「単



独市制に踏み切る時期が必ず来る」と確信を持って町政運営に当たった。いま人口は5万人を超え、その時が目前に迫っている。後任の栗貴章町長(31期)が町民の願いを実現してくれるでしょうと栗町長にエールを送った。

2年後の30周年へ誓い新た

松任一泉、大同窓会めざす

松任一泉同窓会の平成21年度総会・懇親会が11月28日、グランドホテル松任で53人が出席して開かれた。あいさつに立った福住孝会長(一中57期)は「一泉同窓会を愛し、義を



持ってこの会に出席し、お互いに良い刺激を求め合おう」と呼びかけ、2年後の設立30周年には150人を超える大同窓会にしようと誓い合った。

清水一規さん(泉丘35期)が司会を務め、蚊谷八郎一泉同窓会会長(同14期)がお祝いを述べ、新屋長二郎泉丘高校副校長が文武両道で頑張っている後輩たちの様子を報告した。続いて青木桂生副会長(同13期)の乾杯の音頭で酒宴が始まった。にぎやかな話の輪が広がる中で恒例のビンゴゲームでさらに盛り上がった。最後に一中・泉丘の両校歌を合唱＝写真＝、中山幸昌副会長(同9期)の中締めで散会した。(松本雅治＝同42期・記)

tax attorney, accountant
中西良彦税理士事務所

税理士 中西 良彦(泉丘25期)

〒924-0864 石川県白山市馬場2丁目35番地
ファミージュ桜通104
TEL076-274-0248 FAX076-274-3254
E-mail:nknshta@quartz.ocn.ne.jp

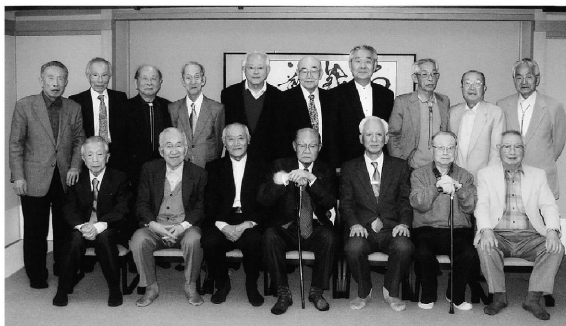
清酒「加賀鶴」「前田利家公」醸造元

やちや酒造株式会社

代表取締役社長 神谷昌利(泉丘25期)

〒920-0818 金沢市大樋町8番32号 TEL076-252-7077
URL: <http://www.yachiya-sake.co.jp>

一中・泉丘 各期の集い①



◆一中50期、丑年7周目の同窓会

大方が大正14年の丑年生まれで、7周目の年男(84歳)を迎えた一中50期の同窓会が4月15日、金沢ニューグランドホテルで開かれた。出席した17人は互いの長生きを祝い、8周目の年男になるまで同窓会を続けようと誓い合った。

初めに会長の西坂弥三郎が「昭和13年、憧れの金沢一中に入学した210人の仲間も今や91人にまで減った。しかし、関東や関西からの7人をはじめ今回17人も参加でき、うれしい限りである。ナンバーワンを目指すのが一中精神であり、健康に留意してもう1周先の丑年同窓会まで頑張ろう」とあいさつ、関西代表の宮村孝夫君の乾杯の音頭で酒宴に入った。いつものように宴たけなわのところで大森三郎君のハーモニカ演奏が始まり、校歌、応援歌、ポンプこと山本協一先生に習った懐かしい歌を次々と合唱して、予定の2時間を大幅に超えた。

宴会場は和室で、低めのテーブルとイスが準備され、料理も金沢の旬の味を満載した年寄り向け懐石。これなら足、腰だけでなく胃にも負担がかからないと大好評。来年もこの

ホテルで会おうと決め、記念写真＝写真＝を撮ってお開きとなった。(西坂弥三郎・記)

◆一中51期・一櫻会が同窓会

一中51期・一櫻会恒例の同窓会が5月21日、金沢市大手町の「KKR ホテル金沢」一泊で行われた。今年は「卒業65周年を祝う記念同窓会」で、昨年を上回る22人が出席した＝写真＝。

中野利男君の司会で128人の物故者に黙祷を捧げた後、東京から来てくれた元参議院議員・和田静夫君の乾杯の音頭で懇親に入った。和田君のほか塚本増能君、酒井忠之君も久しぶりの参加で語らいと笑いの交錯する中、盛会裡に進行した。また、3年前の同窓会直前に急逝した宮林和彦君の夫人・富美子さんにも参加いただいたり、「近江町いちば館」建設に大きな役割を果たした小畑四郎君に、記念品を贈呈する演出が組み込まれるなど、65周年の節目を飾るにふさわしい、そして同窓の友への厚い友情と絆の深さを実感する同窓会であった。最後はいつものように越村吉郎君の音頭で校歌・応援歌を合唱し、来年の再会を約して宮野良雄君の一本締めで閉会した。

翌日は小畑君の案内で新しくなった近江町や「いちば館」を見学、有益な社会勉強を体験して解散した。(園部 哲三・記)



K 建築総合研究所

所長 小林 正澄 (泉丘25期)

〒920-0856 金沢市昭和町8-7
フロムビル3F
TEL076-263-8100 FAX076-263-8104

ぐるーぷほーむ

杜の郷 てらい
能 美

代表取締役 小林 正澄 (泉丘25期)

〒923-1121 石川県能美市寺井町二31-1
TEL0761-58-5100 FAX0761-58-5254

ただなわ TADANAWA
orthopedic CLINIC
整形外科クリニック

医療法人社団 輝秀会

院長 忠縄 秀一 (泉丘25期)

〒920-2154 石川県白山市井口町に80番1
TEL076-272-1333 FAX076-272-3861



◆泉丘4期同期会に60人集う

泉丘4期の同期会が10月19日、山代温泉の「葉渡莉」で3年ぶりに開かれた。一時は出席者も少なかったが卒業して57年、よる年波か人恋しくなり今回は60人に達する集まりとなって盛会だった＝写真＝。

物故者110人への追悼、山崎昭一郎会長のあいさつに始まり諸件審議報告で総会を終え、懇親会へと移った。何十年ぶりの顔合わせもあったがよくしたもので、杯を重ねるごとに顔立ちのみならず往時の様々も鮮明に思い起こされ二次会、各部屋での座談、朝食時と大変なものであり、いつしか当時と同じ気分になっていた。

今回顔を合わせられなかった友の無事を祈ると共に再会を願い、いつまでも心通う仲間でありたいとつくづく思った二日間であった。(中川 清・記)

◆泉丘7期が卒業55周年 記念の同期会開く

泉丘7期の卒業55周年記念同期会が4月23日、山代温泉のホテル百万石で開かれた。2年ぶりの開催で前回より6人多い72人(男42人、女30人)が出席＝写真＝、楽しい一夜を過ごした。

記念写真撮影の後、石井菊雄君が司



会を務め、この2年間に有松明、宇野克世、小西清志、杉村亨、高岡繁君の5人が亡くなり、同期生457人のうち99人が物故者となったことを報告、全員で黙祷を捧げ冥福を祈った。続いて加茂正則幹事代表があいさつ、東京から参加の山崎利彦君の乾杯の音頭で酒宴に入った。

今回は数人の常連が病氣などで欠席したが、入れ替わって初めて顔を見せた人もあり話が弾んだ。再会を祝い村上喜久男、吉田紀幸、和田英夫の3君が謡曲「鞍馬天狗」を披露、さらに木村晋亮、村上喜久男、諸勝の3君が登壇、一拍子から三三七拍子まで拍手の音頭をとり、応援歌、校歌の大合唱へと続いた。最後に水谷昭君が中締めあいさつをし、2年後に「後期高齢者1年生入門同期会」を開くことを決めて一次会を終えた。

ホテル内クラブでの二次会にも約50人が参加、一部屋空けての三次会にも約30人が残り、深夜まで話は尽きなかった。

また、同日朝、山代ゴルフクラブで開かれたゴルフ大会には20人が参加、坂井英治君が優勝、源本美代治君がブービー賞でこちらも盛り上がっていた。(加茂正則・記)

税理士・社会保険労務士
雲野照正事務所

雲野 照正(泉丘25期)

〒920-0867 金沢市長土堀1-15-2
TEL076-222-2228 FAX076-222-2229

内 科・消化器科
循環器科・放射線科
木村内科医院

院長 **木村 政徳**(泉丘25期)

〒921-8005 金沢市間明町1-346
TEL076-291-3800 FAX076-291-0527

日本海建設株式会社

専務取締役 **小柳 誠**(泉丘25期)

〒921-8027 金沢市神田1-3-10
TEL076-243-3131 FAX076-244-1599



◆泉丘8期が3年ぶりに同窓会

泉丘8期・八泉会の同窓会が9月8日、金沢ニューグランドホテルで開かれた。平成18年の卒業50周年記念同窓会以来3年ぶりの開催で、出席した67人（内県外勢は14人）は久しぶりに旧交を温めた＝写真1、2＝。

中谷玲子さんが司会、この3年間に亡くなった3人の冥福を祈って黙祷した。続いて福田太睦代表幹事があいさつ、滋賀県長浜市から出席の橘地澄子さんと栃木県鹿沼市の北條英俊君の二人による乾杯の音頭で懇親会に入った。途中、来賓の普神貴行先生からお祝いのスピーチがあり、後半は加藤弘雄君によるビンゴゲームを楽しみ、全員で懐かしい唱歌や校歌を合唱、細川外喜男元代表幹事の閉会の言葉で締めくくった。

二次会は同ホテル最上階のラウンジで開かれ、ほとんどが参加して夜の更けるのも忘れて飲み、歌った。次回同窓会はやはり3年後と決め、中川外司君の音頭で万歳を三唱して散会した。（茶屋勝也・記）

泉丘高校の第25回「生き方講演会」が5月14日、啓泉講堂でNHKのBSスポーツデスク・杉林昇氏（泉丘21期）＝写真＝を講師に迎えて開かれた。

元アナウンサーの杉林氏は、甲子園の高校野球や夏季、冬季合わせて5度のオリンピック実況中継を踏まえ、「スポー



杉林先輩迎え講演会 ——トピックス——

ツのこころ」と題して講演した。米大リーグで活躍する松井秀喜やイチロー、北京五輪3位の男子400メートルリレー選手たちの練習や本番での活躍ぶりを伝えながら、①夢を持ち②継続し③創意工夫し④チームワークも取り入れ⑤勇気ある挑戦——が人生にとって大切と訴えた。



◆泉丘8期の燦々会、5年連続開催

泉丘8期33ホームのクラス会・燦々会が6月19日、KKRホテル金沢で開かれた。

「毎年集まろう」を合言葉に5年連続の開催で、関東地区3人、関西地区からの1人を含め20人が参加した＝写真＝。一次会で大いに盛り上がり二次会、三次会と続き、素敵な馬車がかぼちゃに戻る頃にやっと散会した。みんな元気です。（渡辺元彬・記）

あなたの歯の健康を守る

DENTAL OFFICE

香林坊歯科クリニック

医療法人社団 豊歯会 院長 永井 豊（泉丘25期）

金沢市富樫・泉丘高グラウンド前 TEL076-243-4618

http://www.243-4618.com

（有）風建築設計工房

代表取締役 笠島 理（泉丘25期）
建築家

〒921-8116 金沢市泉野出町4-13-26
グリーンアーツ2F

TEL076-280-3443 FAX076-280-3445



◆関西泉寿会（泉丘10期）が総会

関西泉寿会（泉丘10期）の総会・懇親会が10月25日、大津市のKKR ホテルびわこ一泊で開かれた。2年ぶりの開催で地元関西から12人、金沢から18人、関東、東海から各1人の32人が出席した。

総会では関西の宮本チハヤ会長が歓迎のあいさつ、役員改選では全役員が留任となった。続く懇親会は全員の近況報告と歓談で盛り上がり、校歌を斉唱して中締めとなったが、部屋に戻っても遅くまで思い出話が続いた。

翌日は全員で三井寺を訪れ＝写真＝、国宝の光浄院客殿や31年ぶりの本尊ご開帳を拝観、ホテルへ戻ってのお別れ昼食会後、名残を惜しみながら散会した。なお、バスをチャーターして参加した金沢組は初日に石山寺、二日目は堅田の浮御堂や琵琶湖大橋などの観光も楽しんだ。（宮本チハヤ・記）

◆関東泉寿会が恒例の新年会

関東泉寿会の平成22年新年会が1月31日午後、東京・新宿の日本出版クラブ会館で31人が出席して開かれた＝写真＝。

初めに物故者に黙祷を捧げ、中田進君の乾杯の音頭で懇親会に入った。金沢からの林茂会長ら4人、関西からの宮本チハヤ会長が各



地の様子を報告、その後は恒例のビンゴゲームに始まり、フラダンス、歌謡舞踊、詩吟の発表、懐かしの歌と続き金沢土産の「かぶら寿し」を食しながら青春時代的话题に興じた。

最後に校歌を大合唱、大窪紀吉の時事放談で新年会を終えた。（金子兵衛・記）

◆泉寿会（泉丘10期）本部も新年会

泉寿会（泉丘10期）の本部新年会が2月27日、金沢ニューグランドホテルで57人が出席して開かれた＝写真＝。総会では71人の物故者に黙祷を捧げ、林茂会長があいさつ、続いて昨秋の叙勲で旭日双光章を受章した雄谷助成君と、同じく瑞宝双光章の若林茂樹君に花束を贈って二人の栄誉を称えた。

新年会は関西泉寿会の宮本チハヤ会長の乾杯の音頭で始まり、関東から参加の森礼子さんが「大川くずし」など歌謡舞踊三曲を披露、終盤では「早春賦」など三曲と校歌を大合唱、長瀬直義副会長の中締めと万歳で名残を惜しみながら閉会した。（中山一郎・記）



内科・消化器科
松田内科医院

院長 **松田 博人**（泉丘25期）

〒921-8041 金沢市泉2-7-1
泉2丁目バス停横
TEL 076-241-2505

加賀菊酒



菊姫合資会社

株式会社 小柳屋

柳 幸 枝（泉丘25期）

〒920-2126 白山市鶴来新町ター8
TEL 076-272-1234(代) FAX 076-273-1222

―戦後激動期のひとこま― ―高自治会と米軍政隊

いまから60余年前、戦後日本の「六三制」をはじめ多くの教育改革は、占領軍の政策の一環として実施された。昭和22年から24年にかけて、本校でも金沢一中から一高へ、そして男女共学の泉丘へとめまぐるしく変貌したこの時期、自治会の結成と運営をめぐる、一高生と県地方軍政隊（占領軍）の間に、緊迫した、過渡期ならではの興味深いエピソードが伝わっている。上谷親夫さん（一中55期・泉1期）にお話を聞いた。

上谷親夫さんに聞く

昭和23年3月に一中を卒業後、また金沢一高へ編入の形で入れて頂いた。すでに新制一高の自治会は活動がスタートしていたが混乱を極めており、私は2年の小林時治君をはじめ4・5名の同志といっしょに自治会機関紙の発行を企画し、7月15日に「いずみの原」創刊へとこぎつけた。翌年3月まで、9月以降は毎月1回、在校中に8号までを発行した。

民主主義への方向転換に動揺

校内の雰囲気は、終戦直後の極端な荒廃から少しは収まったものの、戦時中の忠君愛国的教育が、終戦を境に民主主義教育へと大きく方向転換したその不信を、先生方にぶつけようもなく、動揺する生徒も少なくなかった。そうした中で、学問の自由を守り、自分たちの学校生活を充実させるべく生まれたのが自治会組織であり、啓蒙の具としての機関紙「いずみの原」であった。生徒会役員協議の下、会費や予算割当て等も決まり、自治会の前期は一見順調に過ぎていった。

しかし、やがてそこに新たな問題が起きてきたのだった。新規の学校施設費負担の是非をめぐる議論沸騰。公立校の施設に個人負担不要という意見や、苦しい時はお互い様



マーチン事件について語る上谷さん

という人情論など種々あったが、一部の人たちが知事に直談判？に行った辺りから問題が大きくなった。自治会の後期役員選挙を控えた23年9月、軍政隊から突然、生徒自治会形態から学校自治会（学校長が最高決定権をもつ）への改組を勧告してきたのだった。自治会のあり方の本質に関わる問題だけに、生徒

学校自治会への改組勧告 占領軍 上谷氏 猶予がほしいと直接訴え

の反響も大きく、校内は賛否両論でもめにもめた。

機を同じくして、この4月に就任したばかりの大河良一校長先生が25日付で県教育長の転出、次の鍋木徳二校長の就任が10月30日に成るなどまが空き、役員選挙どころか生徒の間には危機感さえ感じられた。軍政隊としては、市内唯一の公立男子校だった一高生徒の動きに他校より、敏感にならざるを得なかったのだろう。10月に入って4度もの軍政隊の来校が、それを物語っていたと思う。

講堂に全生徒集めて詰め寄る

彼らは来校のたびに生徒代表と会い、23日には講堂に全生徒を集めて、学校自治会準備組織の発足を重ねて促した。この日は京都・大阪からの占領軍将校や通訳も交え、4名だったと思う。校長の決定権についての活発な質疑応酬があり、県軍政隊長マーチン氏がついに「なぜ、一高では自治会がスムーズ

メにできないのか」と詰め寄ったので、私は思わず手を挙げて、こう言ったのだった。

「フランス革命の流血の混乱はもちろん、メイフラワー号でアメリカ大陸に渡ったあなたの方のご先祖も、先住民との激しい戦いや、独立戦争を経て今日を築いたのだと思う。物事が新たに生まれる時、混乱が起こるのは当然のことである。もうしばらく、我々に猶予を与えてほしい」と。

通訳の言い訳で連行を免れる

通訳を通してのやりとりだったが、マーチン隊長は「君は青年共産同盟に籍をおいたことはないか」「社会科学研究会のメンバーではないか」と激しい剣幕で怒鳴り「自治会を作れないようでは、民主主義は育たない」と言い、その後私を、軍政隊に連行しようとしたらしい。そうならなかったのは、通訳氏（一中出身の先輩だったとか）が、うまく言い訳をしてくれたおかげだとあとで聞いて、胸をなで下ろしたものであった。

翌日、宮沢（外与治）先生はじめ何人かの先生に「思い切ったことを言ったね」と声を掛けられた。此の時を境に生徒自治会は解散。学校自治会準備会が発足し、最も華々しく活動していた社会科学研究会（社研）も軍政隊の意向で解散となった。我々は、占領軍の至上命令の前に、如何ともしがたい敗戦国としての現実を、痛感させられたのであった。

ここが新しい第一歩のスタートであった。

精一杯、自分の信ずる道を歩んだ仲間たち。金沢一高生として、新学制の下で過ごした、日本の戦後激動期のひとこまであった。



金沢一中時代の講堂



全国石川県人会連合会の機関紙で、ふるさとの雑誌として親しまれる「加能人」の平成21年6月号から始まった「いしかわ高校 同窓会山脈」のトップを切って、泉丘高校が紹介された＝写真＝。

立志のころ、青春真っ只中であって受験勉強、クラブ活動に励んだ高校の同窓意識は強い。公私立合わせ県内65校にはそれぞれ同窓会があり、それらの人脈が山なりにつながっている。各界で活躍する同窓生を知ることがは後輩たちの励みになる—と同誌の大坪信善編集長は語り、

活躍する一泉同窓生 「加能人」誌が紹介

金沢一中を前身とする泉丘高校は創立116周年の伝統と県ナンバー1スクールの誇りに満ち、多くの人材を輩出している。だからシリーズの一番手に取り上げ、3回の連載にしたと説明する。

政官界編（6月号）には43人、経済界編（7月号）には51人、法曹・教育・文化・その他編には143人の合計237人が紹介されている。

同窓会事務局は有名な故人のみを知らせて協力、掲載判断は同誌が行った。同誌は1万5千部発行され、県立図書館や金沢市立図書館で閲覧できる。

一中・泉丘 各期の集い②

◆関東泉丘11期が卒業50周年同期会

関東地区在住泉丘11期の卒業50周年記念同期会が4月17日、東京・新宿の三井クラブで男17人、女9人の計26人が出席して開かれた＝写真＝。

最初に校歌を合唱、会員の健康と今後の活躍を祈念して乾杯、祝宴に入った。お酒は同期の車多壽郎君（白山市）から差し入れられた「天狗舞」。故郷を懐かしみながら銘酒に酔いしれた。途中、各自が50年の来し方、近況、家族状況、これからの過ごし方などを報



告しあった。5時間の長時間にもかかわらず、あっという間の楽しい集まりだった。

関東11期は観桜会、紅葉をめぐる会、忘年会、小旅行など活発に行っており、初めての参加者を歓迎している。（新谷 修・記）

◆恒例の関東緑窓会（泉丘12期）開く

泉丘12期の関東緑窓会が今年も6月6日、浅草のアサヒビール21階・展望レストランで35人が出席して開かれた。1年ぶりの再会で、隅田川の黄昏を背景にビールやワインを飲みながら積もる話に花を咲かせた＝写真＝。

来年は卒業50周年の節目の年。より多くの会員が気軽に参加できるようにとアンケートをとったが、これまで通り6月の第一土曜日の5日開催が望ましいということになった。

また、次期幹事には藤野公望、本折進君、西田久美子、高瀬のぶえさんの4人が決まった。散会の時間となっても分かれがたく、浅草名物の電気ブランで飲みなおそうと神谷バーへ



行ったが週末で超満員。仕方なくコーヒ一杯で帰途に着いた。（幹事：高村統一・谷口克俊・羽野みち・玉井真寿美）

◆泉丘13期のセブン会が集い

泉丘13期の2年7組「セブン会」の集いが4月12日、湯涌温泉の「かなや」で開かれた。32人（男24人、女8人）が出席、3年ぶりの逢う瀬を楽しんだ＝写真＝。

まずクラスメイトの池田清司医師が「認知症を防止するこれからの生き方」と題して講演した。続いて能村明文会長があいさつ、亡き敏友に黙祷を捧げた。酒宴は大阪から来てくれた宮本晴江さんの乾杯の音頭で始まった。今村邦明さんのサックス演奏、大きなスクリーンに高校時代の写真が映し出されるなどの演出で盛り上がり、校歌を大合唱した。

翌日は桜満開の兼六園を散策、昼食の後すがすがしい気分で散会した。（戸澤治子・記）



JSG 機械警備・常駐警備・交通誘導警備・イベント警備
 日本海警備保障株式会社

代表取締役 高 見 太 郎 （泉丘25期）

本社 〒920-0022 金沢市北安江2-24-8
TEL 076-221-1321(代) FAX 076-221-1355
E-mail jsg01@themis.ocn.ne.jp

損保ジャパン・損保ジャパンひまわり生命
アリコジャパン・第一生命

(株)ハート保険ジャパン

代表取締役 平田 進 (泉丘25期)

〒921-8141 金沢市馬替2-99
TEL076-298-0801 FAX076-298-0775
http://www.hhj.co.jp

◆泉丘13期・三六会が新年会

泉丘13期・三六会の新年会が2月20日、金沢兼見御亭で開かれた。参加者は52人（男46人、女6人）とやや少なかったが、遠方から西村一郎君（東京）、広瀬美恵子さん（神奈川）も顔を見せた。

終身会長の飯倉亨君があいさつ、続いて広瀬さんの乾杯の音頭で酒宴が始まった。すぐに会場のあちこちに小さな輪ができ、杯を酌み交わしながら近況を報告しあった。

会も佳境に入ったころ、幹事から「今年は高校3年時から数えて50年になるので、秋に三六会の記念同窓会を開催しては…」との提案があり、全員「大賛成」の返事で即決定。十月半ばの開催を目指して準備を進めることになり、秋の再会を楽しみに一次会はお開きとなった。

二次会はいつものように片町に繰り出し、中には明け方近くまで飲み、歌い、語っていた連中もいたそうな…。（米田勇一・記）

◆泉丘14期が真夏の能登を満喫

泉丘14期「一四会」の夏行事が8月22日、穴水町内浦の金沢工業大学能登穴水湾自然学苑1泊で開かれ、夫婦組も含めた40人余が能登の夏を満喫して楽しい2日間を過ごした。同大学の理事長を務める泉屋利郎君の計らいで同施設を利用したもの。

初日の夕方にはゴルフ組も到着、しばらくは緊張気味だった久しぶりの参加者や奥さん連れも、バーベキューが始まる頃には和気あいあい。ナイトクルージングも体験して深夜まで飲み、食べ、語り合った。

2日目の23日は6時に起床、国旗と校旗を掲揚、ラジオ体操もした。朝食後は全員で能登島一周のクルージングに出発＝写真＝、キ

ス釣りを楽しんだ。天候に恵まれて波静かな穴水湾の風景を愛でながら童心に返り、命の洗濯をした気分だった。夕方、来年の再会を約し、名残を惜しみながら散会した。

（吉田邦雄、穴戸 範・記、吉田昌兼・写真）



◆「一四会」恒例の忘・新年会も

泉丘14期「一四会」恒例の忘年会が12月14日、金沢市主計町の鍋割烹「みふく」で34人が出席して開かれた。蚊谷八郎会長があいさつ、いつものように名物のカキ鍋に舌鼓をうち、杯を交わして近況を語り合った。

また、2月13日には同市東山1丁目の焼きとり「ちょう吉」で新年会が開かれ、出席の23人が「今年も楽しくやろう」と誓って盛り上がった。（穴戸 範・記）

◆関東14期は大洗に集う

関東泉丘14期の21年度同窓会が10月18日、茨城県の「オーシャンビュー大洗」一泊で開かれ、36人が出席した。

この日は近くのCC・ザ・レイクスで12人がゴルフ、18人が袋田の滝や竜神峡谷の観光を楽しんだ。翌19日は水戸偕楽園やひたち海浜公園を回り、楽しい一日を過ごした。

関東泉丘14期は3ヵ月に一度の割で、定例ゴルフ会も行っている。（蓮川洋一・記）



電子部品・ECO 製品の

大正テック株式会社

代表取締役 大 砂 正 明（泉丘26期）

〒921-8013 石川県金沢市新神田3-2-27

TEL 076-287-6641 FAX 076-287-6642

URL <http://www.taisho-tech.co.jp>



◆泉14期38ホームがクラス会

泉丘14期38ホームのクラス会が1月17日、金沢駅前のホテル日航金沢で開かれた。あいにくの雪で交通機関が大幅に乱れたのにもかかわらず関東、関西、中京などからの県外勢6人が駆けつけ、担任の楠禎一郎先生を含めて17人が出席した＝写真＝。

まず7人の物故者に黙祷を捧げ、順次近況報告を行った。まだ現役でかつやくする者、リタイアして第2の人生を謳歌する者とはほぼ半々だった。酒が入るにつれたちまち48年前の高校時代にタイムスリップ、先生を囲んでの思い出話に花が咲き、笑いもあって大いに盛り上がった。

寅年生まれの楠先生（7回目の年男）は、まだまだかくしゃくとしたもの。この日もボールで500m泳いで来られたとのことで、66歳の我々も真っ青。名残が尽きない中、2年後の卒業50周年での再会を誓い、校歌を大合唱して一次会を閉じた。

二次会は片町へ流れ、もう一度盛り上がった。（酒井 猛・記）

◆関東おはこ会に48人集う

第4回関東おはこ会（泉丘18期）の総会・親睦会が7月4日午後、東

京・新宿のホテルセンチュリーサザンタワー21階、パークルームで開かれた。金沢から18期代表の福田裕氏、新潟県から芳井研一氏、群馬県から越田嘉範氏、岐阜県から後藤忠則氏らが駆けつけ、総勢48人参加＝写真＝で楽しいひと時を過ごした。

親睦会では長元正春会長が歓迎のあいさつ、福田代表が来年8月14日、山代温泉で開く第12回おはこ会について説明、多くの参加を呼びかけた。続いてこの3年間に亡くなった3人の級友の冥福を祈って黙祷を捧げ、静岡から参加の三島文夫氏の乾杯の音頭で酒宴に入った。

会場には趣味・特技の写真や作品、ブログやホームページが掲示され、歓談の合間には吉室誠氏のマジック、有志が持ち寄った景品が当たる金沢検定などがあって大いに盛り上がった。最後に今戸詩美さんの指揮で校歌を合唱、山本星子副会長の閉会の辞で名残を惜しみながら散会した。

なお、総会では役員改選が行われ次の皆さんを選出した。会長・長元正春、副会長・山本星子、会計・新村喜弘、小関彩子、会計監査・荒屋正年、事務局長・藤島寛仁、同代理・原俊道。（藤島寛仁・記）



株式会社 越田建築環境計画

代 表 越 田 俊 一 郎（泉丘26期）

〒920-0336 金沢市金石本町イ5

TEL 076-267-1171 FAX 076-267-1172



◆泉丘25期「四つ葉会」が6年ぶり同窓会

泉丘25期「四つ葉会」の同窓会が8月15日、金沢都ホテルで開かれた。6年ぶりの開催で同窓生132人、恩師11人が出席＝写真・上の2枚＝。級友の津賀沼厚子さん、市村幸子さんご夫妻による箏と尺八演奏で始まった。司会是小林正澄さんと上田明美さん。

まず、中野素さんによる物故者黙祷、山本利郎実行委員長のあいさつ、恩師代表として最高齢の氷田清風先生のスピーチ、泉丘教頭の菱田浩章さんによる母校の現況報告、そして恒例の鏡割りへと進む。転勤のため幻の副実行委員長となった泉屋繁さんの乾杯を機に、会場は37年前へタイムスリップ。あちこちに話の輪ができた。氷田先生が色紙をご持参され、その抽選会というサプライズも。

そして今回の目玉は高校時代のスライド上映である。制作は中嶋秀夫さん。多田拓也さんが名調子でナレーションを担当した。修学旅行や仮装大会の写真を中心に、若い若い自

分たちの姿が映し出されると、「オレや!」「昔は可愛かったなあ」などの歓声があがり、一気に盛り上がる。さらに2年のクラスに席替えとなり、宴は続く。最後は島村俊子さんのピアノ伴奏と応援団長・島野幸一さん指揮による校歌斉唱。柳幸枝副実行委員長の閉会あいさつのあと、岡田宜之さんの終身事務局長就任が了承され、閉会となった。次は還暦の年の開催を約して。(松村信子・記)

◆泉丘33期が恒例の忘年会同窓会

泉丘33期恒例の忘年会同窓会が12月30日、金沢市片町1丁目の関ビル3階、パブ・ジムホールで開かれた。夕方から大雪となったが関東、関西から正月帰省の人もあり、予定通り27人が出席した。

10月に藤江秀樹君と前川定之君の2人が相次いで亡くなったこともあり、今回の合言葉は「会えるときに会っておこう」。世話役の植村まゆみさんがあいさつ、ビールで乾杯しておいしいイタリア料理に舌鼓を打った＝写真＝。初めての参加者もあり近況報告などを行って、和気あいあいのうちに2時間余が過ぎた。別れがたく二次会、三次会と夜の更けるのも忘れるほど語り合っ旧交を温めた。

また、12月5日には関東地区の33期同窓会が東京・神楽坂の居酒屋「竹子」で行われ、24人が顔を合わせた。(北島洋一・記)

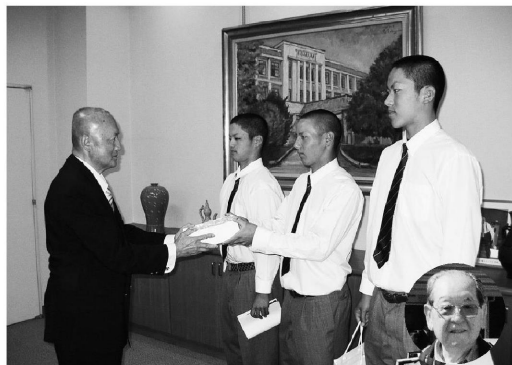


塗料 工業薬品 化成品
株式会社 斉 田 商 店

取締役 佐々木 雅 子 (泉丘26期)

本 社 〒920-0342 金沢市畝田西1-2 TEL076-268-5678
富山営業所 〒923-0251 射水市有磯2-3-2 TEL0766-86-2930

文化・運動部 OB 会だより



野球部に公式ボールを寄贈

「甲子園目指して頑張れ」一。一中野球部の思いを込めた練習用の公式ボール半ダースが6月1日、泉丘野球部の小西陽介主将に贈られた＝写真＝。寄贈者は一中55期でOBの下村佳生さん（東京・小金井市在住）＝円内写真＝。贈呈の代理を務めたのは同57期で同じくOBの田上光さん（砺波市在住）。

寄贈のきっかけは5月2日、金沢市民球場で行われた春の北信越高校野球石川県予選3回戦・泉丘一石川高専（2－1泉丘勝利）を観戦した田上さんが、下村先輩を訪ねた際に試合の様子を細かく報告したことから。投手は全体に走りこみと投げ込みが足りない指摘した。後日、下村さんは東京・神田のスポーツ店「ミズノ」へ出かけ、東京6大学野球の公認ボールを買い求めて田上さん宅へ送った。先輩から一中野球部精神の伝授を託された田上さんは、早速母校に駆けつけた。

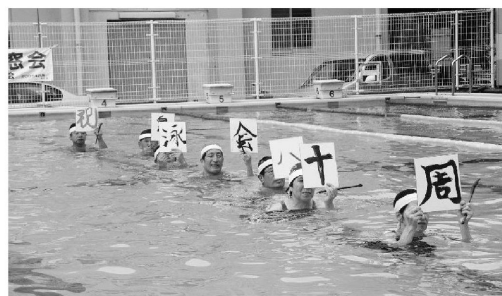
昼休み時間に校長室で行われた贈呈式には小西主将のほか吉本康祐、井上将徳の両投手、北本正伸監督が出席した。田上さんからはボ

ールのほか東大野球部のTシャツ1枚も贈られ、「文武両道」を目指せと付け加えられた。

泉泳会 プールサイド同窓会

金沢一中と泉丘高校の水泳部OB・OGでつくる「泉泳会」は8月15日、創部80年記念プールサイド同窓会を母校のプールで開いた。20代から90代までの約30人が水しぶきを上げ、大正4年の創部以来の栄光の歴史をしのぶと共に変わらぬ友情を確かめ合った。

同窓会には90歳の林繁夫さん（一中44期）を始め向川勇会長（一高）、昭和35年のローマ五輪200m平泳ぎの銀メダリスト・大崎剛彦さん（泉丘9期）、夫人で同五輪自由形出場の喜子さん（奈良県出身）、中央大学教授で元同大水泳部監督の吉村豊さん（同17期）、現役国体選手の浜上洋平さん（筑波大講師、同55期）と小崎順平さん（同大大学院、同56期）ら多彩な顔ぶれが揃った。次々とプールに飛び込むトップスイマーの模範の泳ぎに大きな拍手が湧き、泉泳会が中心となって結



成した古式泳法の会「日泳会」も立ち泳ぎしながら筆で文字を書く「水書」＝写真＝などを披露した。

また、同日夜には金沢駅前のガーデンホテル金沢で総会・懇親会が行われ、浅田秀雄校長も駆けつけて創部80年を祝った。

健康をまもって 400 年・・・

コメヤ薬局

代表取締役社長 長基 健司
(泉丘26期)

信頼の歴史で地域医療に調剤業務とドラッグストアで貢献いたします。



弓道部が恒例の交歓会開く

弓道部恒例のOBと現役部員の交歓会が8月14日、母校の弓道場「如泉堂」で62人が集まって行われ、射会や近況報告などで一泉弓道部の絆を強めた。

午前9時から行われた一泉弓道射会には85歳の山形周一郎さん(一中50期)をはじめ、OB9人と現役部員33人の42人が出場、3人1組・1人8射で腕前を競った＝写真＝。団体の部では前田鷹図君(泉丘59期)、上島千明さん(同60期)、倉橋宏輝君(同61期)の若手OB組が13中で優勝した。個人の部では8射8中の眞田浩樹君(現役)が男子と総合の2冠となり、女子では上島さんが6中で優勝した。

次期幹事には金沢大学1年の叶田祐介君



(同61期)と倉橋君の2人が決まった。両君は22年度も盛会となるようOB、特に女性の方の参加を願っている。

(幹事・河合香里＝泉丘59期・記)

櫻美会 美術展 2500人以上が鑑賞

金沢一中・泉丘高校卒業生の美の同窓会「第37回一泉櫻美会美術展」が9月8日から13日まで、金沢21世紀美術館で開かれた。同美術館での開催は2年ぶりで、会員58人と現

役美術部員9人の力作80点が展示され、同窓生や一般市民ら2500人以上が鑑賞に訪れた＝写真＝。

月光に輝く白山の峰を描いた油彩画や、ドアをキャンバス代わりに級友の名前を記した作品、角を突き合わせる闘牛をかたどった紙漆工芸、ケヤキの木での刻字など興味ある作品の中でひととき同窓生の目をひきつけたのは物故会員の油絵。今年相次いで亡くなった横井衛さん(一中51期)の「葡萄」、大蔵吉



夫さん(同47期)の「戸隠高原」、北徳一さん(同45期)の「ねぶた祭り」。3作品の前で級友たちが思い出話をする姿も見られた。

また、同展の作品は10月17日から11月3日まで白山市白峰の県立白山ろく民俗資料館で「一泉櫻美会文芸展」として展示され、にぎわった。

◆33回目の小品展には43点並ぶ

一方、33回目となる一泉櫻美会小品展が6月5日から10日まで、金沢市泉野出町4丁目のグリーンアーツギャラリーで開かれた。同ギャラリーは母校に近く、駐車スペースも多いので多くの同窓生や市民が鑑賞に訪れた。

小品展は身近な日常生活を題材にした作品が多いのが特徴で、今回は40人の会員が絵や書、写真など43点を出品した。

TVゲームの大型専門店



カメレオンクラブ北陸

工大前店 076-247-8005
 駅西本町店 076-232-0455
 福久店 076-258-6922
 小松店 0761-24-3585
 七尾駅前店 0767-52-7543
 直江津店 025-545-0313

(有)ホリグチ 代表取締役 **堀口 登** (泉丘26期)

<http://www.horiguchi1988.co.jp/>

行列で「一泉」をアピール

泉丘高校の創立61周年記念祭の前日祭に位置付けられた平成21年度の「一泉行列」が8月28日、一泉同窓会員約60人を含む260人が参加して行われ、「一中・泉丘ここにあり」を市民・県民にアピールした。

「一中魂から泉丘魂」の継承を目指し、一中創立の地・本多町から泉野出町の現泉丘高校まで行進する行事で、午前10時すぎに金沢歌劇座前で出発式が行われ、浅田秀雄校長が「一泉の意気を大いに示そう」とあいさつした。応援団・チアガールを先頭に同窓会員、



ブラスバンド、記念祭の野外劇衣装の3年生の順で渋谷亮治元同窓会会長（一中54期）ら多くの見送りを受けて出発した。

香林坊、片町、野町広小路、有松と約4.5キロの沿線では事業所を構える同窓生が拍手で迎え、「頑張って」と激励した。弥生2丁目のフラワーガーデン前では今年も松下良社長（同53期）が花束を持って出迎え、生徒会の長村呼夏さんに手渡して励ました＝写真＝。

正午前に母校グラウンドに着いた一行はジュースで乾杯、蚊谷八郎同窓会会長（泉丘14期）は「一中・泉丘のエネルギーを十分にアピールできた。今年もありがとう」と現役生

たちに礼を述べた。なお、今年の最高齢参加者は太田重雄さん（一中50期、85歳）だった。

先輩の意見、進路に生かす

21年度「社会人と語る会」

松本
大さん



村上
啓太さん



眞鍋
知子さん



喜多
大輔さん



河村
達哉さん



池田
香織さん



榎蔵
充則教諭



各界で活躍する泉丘高校出身の先輩の話を聞き、今後の進路や生き方の参考にする平成21年度「社会人と語る会」が11月7日、2年生を対象に啓泉講堂で開かれた。

パネリストとして招かれたのは松本大建築設計事務所の松本大代表（33期）、ジョブシステムの村上啓太社長（37期）、金沢大学地域創造学類の眞鍋知子准教授（40期）、金沢大学附属病院脳神経外科の喜多大輔医師（41期）、トヨタ自動車 AT 技術室の河村達哉主任（43期）、米澤・宮前法律事務所の池田香織弁護士（44期）の6人。コーディネーターは榎蔵充則教諭（47期）が務めた。

6人は自分の高校時代の進路選択方法や現在の仕事を通じて①自分の好きな事を将来に結びつけよう②目標は早く決めたほうが良い③世に出たら積極性・協調性が大切④高校時代の友人は大学時代に優る一などと話し、後輩たちを励ました。

♥ オンリーワン・ハネムーン ♥

お二人だけの思い出に残るハネムーンをご提案します。

ハネムーン専門店＜OM・ヴァケーション＞

チーフデザイナー 矢 津 洋（泉丘26期）

投稿二題

私が憧れの一中野球部に入部できたのは、入学してから半年後の昭和20年10月のことでした。それまで敵国スポーツとして18年春から廃部させられていた野球部が、8月15日の終戦によってようやく復活することが出来たのです。

グラウンドの大きさ、ホームベースの位置などは現在と一緒になのですが、ちょうどその頃から耕作された畑は2年生の

夏(21年)には南(円光寺側)は三塁線のファールゾーン全体、西(学校正面の県道側)はレフトの守備位置前まで広がっていました。食糧不足に対処するため先生たちがサツマイモや大根などを植え、グラウンドを家庭菜園化したもので、畑に飛び込んだボールを捜すのが大変でした。

当時の硬球ボールは新円で一個500円。現在の物価指数で換算すると2万円はする代物

戦後生まれで『団塊の世代』と呼ばれる私たち18期は、“三八豪雪”の年の春に入学した。「史上最大の狭き門」と言われ、同期生は泉丘全期の中で最多の576人(そのうち女子は最小の89人)。椅子と一体になった木製机は教室にいっぱい、最後列は壁と隙間がなかった。校内は土足履きで汚れ、床に筆記用具を落とすと白い消しゴムも真っ黒になった。

小立野台地からバス通学の私は泉野で降り、農道を歩いた。雪の日はずぐ運休する坂道の多い路線で、家から学校まで重いカ

バンを提げて歩くこともしばしば。一面真っ白な畑の中の道を、男子がラッセルした長靴の跡をたどりながら雪まみれになり、やっと学校に着くと休校だったこともあった。なぜ必死に登校したのだろうか。現在のように行き届いた教育でなく、少々粗いものだったかも知れないが、文・理系に係わらず全教科必修だった。学校の授業がすべての時代で、授業に出ないと解らなくなると

畑の中?での野球練習

一中57期 田上 光



です。特に茎や葉が伸びたサツマイモ畑に転がり込むとなかなか見つかりません。畑の前に補欠部員がずらり並んでボールが転がり込まないようにと構えているのですが、下村佳生先輩(一中55期)や堀利雄先輩(同)らはライナーでポンポン打ち込まれるのです。

「なにをボヤボヤしとる」。ボールが見つからないと先輩から怒鳴られ、畝を踏んだり作物を傷めると畑の主の先生から叱られます。

日曜日にも練習したのですが、その日は先生方も家族総出で畑の手入れです。怖い先生が美人の奥さんに頭が上がらなかつたり、子沢山だったり。授業だけでは分らない先生たちの秘密を垣間見ることが出来たものです。

畑の中で練習しているような一中野球部でしたが、21年夏の中部近畿選抜大会では京都の名門校・平安中学を破るなど実力は大変なものでした。球春到来を聞くと、青春を賭けた練習風景を私はいつも思い出します。

投稿二題

言う不安があったのだろうか。

文武両道・心身一如の校風で、3年生の最後まで部活動を続けた男子もいたし、図書館は沢山の生徒の学習の場だった。どこも男子ばかりで、しばしば冷やかされもしたが、昼休み時間に講堂でフォークダンスの会があり、震える男子の手をとり踊ったことも…。

「18期は他の期と違って気概がある」と言われていた。先生方も私たちも個性

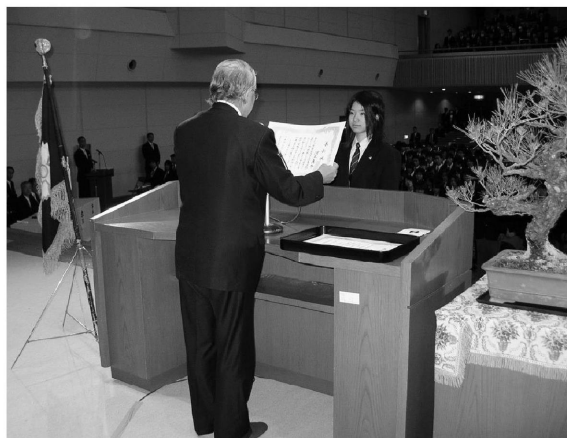
に溢れ、人数の多い分だけ切磋琢磨して学校中に活気があった。大学時代は学園紛争の渦中に翻弄されたが、その気概を持って企業戦士となり、高度成長期を支えてきた。

還暦を2年過ぎ体力・気力にも少し衰えを覚えるようになったが、その言葉を忘れてはいけない。様々な人との繋がりを大切にしていきたいと思う昨今である。

団塊の世代

泉丘18期 川合 明子





おめでとう「一泉賞」 21年度は5人に贈呈

平成21年度の「一泉賞」受賞者は5人。3月5日の全日制卒業式の席上4人に、同7日の通信制卒業式で1人に蚊谷八郎一泉同窓会会長から賞状とトロフィー、副賞の図書カード1万円分が贈呈された。

同賞は創立100周年を記念した一泉基金事業の一つとして平成6年に設けられたもので、在学3年間を通じ、学業と課外活動を両立させた生徒に贈られる。

今年度の受賞者は次の皆さん。

◆**宮下倭成君** 3年間、将棋部に所属して全国高校将棋選手権や高校将棋竜王戦など石川県で開催された全ての公式試合で優勝、全国大会出場を果たした。また、学業成績も常に学年のトップクラスを維持、性格も温厚篤実で協調性に富み、クラスや部活動における人間関係も良好で、周囲から信頼されている。



◆**河上真冬さん** 2年次に石川県高文連の

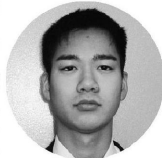
文芸作品コンクール俳句部門で1位となり、全国コンクールは約2万3千点の応募の中で2位に輝いた。俳句甲子園全国大会は連続出場、3年次は全国ベスト12の好成績で、県高文連コンクールの散文部門でも1位となった。校内屈指の文才で、新聞部の部長としても活躍した。



◆**佐武宏香さん** 松山市の俳句甲子園に3年連続出場、1年次はベスト6、県高文連コンクール俳句部門は1位となる。全国高校総合文化祭俳句部門は2、3年次とも県代表となり、2年次の全国読書体験記コンクールでは一橋文芸振興賞（5位）となるなど、文芸部部長のほか県高文連文芸専門部の中心的役割を担った。



◆**平島崇誠君** 2年次に第2回国際地学オリンピックの国内予選で1次を通過、300人による2次予選で最優秀賞に輝いた。日本代表4人の中に選ばれてフィリピンでの本大会に出場、見事銀メダルを獲得した。普段の学習を大切に、何事にも謙虚な努力型。優しくて明るい人柄で模範的な生徒である。



◆**道厘亜莉沙さん** 2、3年次は通信制生徒会の書記、常任委員、「青春のこだま」の生徒審査委員長のほか20年度の創立60周年記念行事では中心的役割を果たした。まじめな努力派でどの教科も成績は優秀。学外では教育プラザ富樫で児童のボランティア活動に参加、菊川少年連盟の高校生リーダーでもある。



株式会社 **山越**

<http://www.kai-p.co.jp/>

代表取締役社長 **山越 昭雄** (泉丘11期)

■コンテンツ事業部

〒920-0001 金沢市千木町70-1 TEL(076)257-9111(代) FAX(076)257-9119

■メディア事業部・総務部

〒920-8665 金沢市兼六元町3-78 TEL(076)222-1144(代) FAX(076)262-5577



印刷・出版・マーケティング・eビジネス

株式会社 **橋本確文堂**

代表取締役社長 **橋本 勝郎**
(泉丘12期)

営業本部 〒921-8025 石川県金沢市増泉 4-10-10

TEL: (076)242-6121 FAX: (076)243-7945

東京支店 〒105-0013 東京都港区浜松町 1-18-12

www.mba.co.jp TEL: (03)5472-7030 FAX: (03)5472-5101

訪台への思いをさせ、校内に飾られた
八田與一先輩の肖像画を見る生徒たち



今秋から台湾へ修学旅行 2年生360人 八田先輩の偉業を見学

泉丘高校の平成22年度の修学旅行先が台湾に決まった。金沢一中11期の八田與一技師が現地に建設した烏山頭（うさんとう）ダムを見学、日台の懸け橋となった大先輩の偉業を肌で感じ取ると共に、台湾の文化・風土などについても理解を深めるのが目的。また、訪台中に一流高校との交流や要人との会見も計画している。

台湾を訪れるのは、この4月に2年生になる360人（泉丘64期生）。10月5日から8日までの3泊4日で関西空港から出発、2日目は台北市から新幹線で台南市へ移動、同市内や烏山頭ダムを見学、八田先輩が10年の歳月を掛けて不毛の嘉南平野15万^{ヘクタール}を肥沃な農地に生まれ変えた様子を学ぶ。夜は再び台北市内

母校だより

に戻って石鍋料理などを楽しむ。

台湾1の建国高級中と交流

3日目は午前中、台湾のナンバースクール建国高級中学校（旧制台北一中）を訪れる。同校は八田氏の長男晃夫氏の母校でもあり、父と子との母校の交流は「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」世話人代表の中川外司氏（泉丘8期）の骨折りで決まった。

午後は故宮博物院や台北市内観光、4日目は台北空港から関西空港へと帰国の途に着き、8日夕に帰沢する。

「NEWSWEEK」日本版の2009年7月1日号で、八田與一技師が「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれた。

徳川家康ら歴史上の人物や現役で活躍する人々を取り上げている中で、八田技

「世界が尊敬する日本人」
八田與一技師が選ばれる

トピックス

師は約80年前の台湾で東洋一の灌漑ダム・烏山頭ダムと水路を建設して、不毛の地を豊かな穀倉地帯に変えたことが評価され、「新しいアイデアで世界に名をはせた日本人」だと紹介している。

通信制だより

児童と一緒にミニ門松作り

振興会の名木先輩が講師

泉丘高校通信制の生徒らが12月19日、校内で児童らと正月用のミニ門松を作って交流した＝写真＝。

通信制振興会の名木栄一郎相談役（通信32期）が講師を務め、生徒12人と近くの金沢市長坂台小学校の5、6年生ら18人に作り方を教えた。ミニプランターに花を挿す土台の「オアシス」を詰め、青竹や松の枝、梅を飾りつ



けて仕上げた。生徒も児童も最初は緊張気味だったが、作業を助けたりしているうちに自然と打ち解けた。

男子生徒は「小学生と触れ合う機会がなかったので、新鮮で楽しかった」と話した。



八田夫妻に教えられること 泉丘8期の 中川氏迎え 修学旅行の事前研修

泉丘高校の平成21年度国際理解講演会が1月28日、修学旅行の事前研修を兼ね啓泉講堂で開かれた＝写真＝。講師は八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会世話人代表・事務局長の中川外司氏（泉丘8期）＝写真丸＝。中川氏は「八田技師夫妻に教えられること」と題して今秋訪台する1年生360人に対し、金沢一中11期の八田與一先輩の仕事だけでなく夫妻の人柄にも触れ、台湾の人たちが二人を尊敬し、慕っている様子を熱く語った。

八田技師が造った烏山頭ダムにある殉職者碑には、日本人と台湾人の名前が区別なく刻されており、現地の人たちは毎年5月に墓前祭を行っていることなどを紹介、①台湾の人々のやさしさ②故宮博物院で中国3千年の歴史、台南市で日本の統治時代に触れ③美味しい食べ物を食して素晴らしい修学旅行を体験してきてほしいと結んだ。

◆アニメ「パッテンライ!!」も観賞

1年生たちは修学旅行の事前研修第1弾として11月5日には、啓泉講堂で八田技師のアニメ映画「パッテンライ!!」を観賞した。

泉丘高から台南県に義援金

修学旅行の下見で訪台した泉丘高校の浅田秀雄校長は11月12日、台南県庁を訪れ蘇煥智県長（知事）に台風8号被害の義援金8万2千円を贈った。8月末の創立記念祭で募ったもの。蘇県長は修学旅行に来る泉丘の生徒たちに歓迎の意を示した。

活躍する後輩たち

男子ハンド、36年ぶり県1に

母校・泉丘高校の男子ハンドボール部がインターハイの石川県大会で36年ぶりに優勝＝写真＝、女子も3位でそろって2年連続北信越大会に出場した。

平成21年度高校総体ハンドボール石川県大会は6月4日から7日まで、県総合スポーツセンターで行われた。4月の春季大会で優勝した泉丘の男子は、1回戦で金市工を36－24で破り、2回戦は県工に28－26で辛勝、準決勝は小松工に27－19で圧勝、7日の決勝は春と同じ寺井が相手となり前半13－8、後半13－11の26－19で見事優勝した。



一方、女子は準決勝で小松商に18－30で敗れたが、北信越代表決定戦では錦丘を19－17で破り代表の座を得た。

北信越大会は21、22日に同会場で行われ、男子は準々決勝で羽水に21－24で惜敗、女子も準々決勝で福井商に17－26で敗れた。

弓道女子個人で村田さんがV

石川県立武道館で行われた弓道のインターハイ予選で泉丘高校3年6組の村田千穂さん

が優勝した。

5月31日に同武道館で行われた予選には約270人が出場、8射5中以上の31人が6月6日の準決勝に進んだ。ここでは12射8中以上の7人が翌7日の決勝に臨んだ。決勝は7人並んでの射詰めで、的をはずした人から脱落し、村田さんは最後まで残って優勝の栄冠を得た。

平成21年度一泉文庫寄贈・購入本

書 名	著 者	購入・寄贈者
沖縄の「かみんちゅ」たち	高梨一美 (泉丘24期)	寄贈・遺族の山田玉枝
ほくりく20世紀列伝上巻・中巻・下巻	北國新聞社論説委員会・編集局編	購入
柴田彌一郎海軍中將(一中16期)覚書	川合三代男著	寄贈・園部哲三(一中51期)
あなたにもミエル化?	喜多充成 (泉丘35期)	寄贈・喜多充成(泉丘35期)
百万石と一百姓	清水隆久 (元泉丘高校教諭)	購入
金澤高等師範学校附属中學校の記録 (改訂増補版) 1944-1952	古川喜作・森下恭子編集	寄贈・森下恭子
愛郷一途	杵掛哲男 (一中54期)	寄贈・田上光(一中57期)
中世加賀「希有事也」の光景	中橋大通 (元泉丘高校教諭)	購入
ジュニア版世界の文学「ジェーン・エア」	C・ブロンテ作、上田和夫(一中52期)訳	寄贈・上田和夫(一中52期)
世界文学全集「新アラビアンナイト」	スティヴンソン作、上田和夫(一中52期)訳	同上
イギリス・ユートピア思想	A・L・モートン著、上田和夫(一中52期)訳	同上
ベートーヴェンその精神的発展	J・W・N・サリヴァン著、上田和夫(一中52期)訳	同上
シェイクスピア物語 (上)	ラム姉弟著、上田和夫(一中52期)解説注釈	同上
キュリー夫人	ドゥアラー著、上田和夫(一中52期)解説注釈	同上
カーライル選集Ⅲ過去と現在	上田和夫 (一中52期) 訳	同上
D. H. ロレンス詩集	上田和夫 (一中52期) 訳	同上
ロレンス	西村孝次編、上田和夫 (一中52期) 一部訳	同上
台湾を愛した日本人 土木技師八田 與一の生涯	古川勝三著	寄贈・中川外司(泉丘8期)
金融商品とどうつき合うか	新保恵志 (泉丘26期)	寄贈・新保恵志(泉丘26期)
「朱木」東京版5号	金沢一中54期・朱木会東京支部	寄贈・金沢一中54期
旧制高等学校「白線帽の青春」東日 本篇・西日本篇	国書刊行会	寄贈・金沢一中54期・朱木会
銅鏡光彩	瀬戸 光 (泉丘18期)	寄贈・瀬戸 光(泉丘18期)
フィールドの生物学①サイチョウ	北村俊平 (泉丘45期)	寄贈・北村俊平(泉丘45期)
人生暦「一言一縁」	田口功一 (泉丘13期)	寄贈・田口功一(泉丘13期)
寸 想 (其の四)	上谷親夫 (一中55期)	寄贈・上谷親夫(一中55期)

英語で課題研究を発表

SSH の理数科2年生40人

文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定されている泉丘高校で12月14日、理数科2年生による課題研究発表会が開かれた＝写真＝。4人ずつ10グループに別れ、県内のALT（外国語指導助手）や県外のSSH指定校の教師らを前に英語で発表した。

生徒たちは、携帯電話の情報読み取りなどに使われるQRコードの仕組みを解明したり、学校の実験室にある機材と薬品だけで燃料電池の製作を目指したりと、難問に挑んだ。

グループごとのブースに張った図表を使っ
ての発表に対し、ALTから英語での質問が
相次いだ。がきちんと英語で対応。理数系の力
だけでなく、英語力の高さも披露した。授業
も公開された。



◆科学者をめざすための資質学ぶ

科学者をめざすために必要な資質などにつ
いて学ぶ特別講座が6月9日、泉丘高校で開
かれ、理数科の1、2年生80人が聴講した。

科学技術政策研究所の和田智明所長が「ノ
ーベル賞・国際級研究人材の育成のために」
と題して講演、研究者になるためには「不撓
不屈の精神を支える体力、コミュニケーション
能力、正義感と品格が大切」と強調した。

東大13人、京大に17人合格(前期)

東大と京大の前期入学試験合格者が3月10日、発表された。泉丘から東大に13人(現役6人)、京大に17人(同14人)が合格した。

前年に比べ東大は3人増、京大も3人増。東大は浪人生の健闘が光り、5年ぶりに理Ⅲの合格者も1人出た。逆に京大は現役生が頑張りを見せた。ライバル校の金大附属に比べても東大で1人、京大で11人多く、県内で断然トップの座を守った。

その他の有名国立大では阪大15人、東北大10人、名大、神大各6人、北大4人、東京工大3人、一橋大に2人が合格した。

国公立、私大の医学部には14人が合格、うち金大は8人(現役4人)だった。

吹奏楽部が慰問演奏会

泉丘高校吹奏楽部の慰問演奏会が10月18日、金沢市円光寺3丁目のデイサービスセンター朱鷺の苑円光寺で開かれ、43人の部員が息の合った演奏で施設の利用者や付近住民ら約100人を喜ばせた＝写真＝。

同施設への慰問は昨年に続き2回目。美空ひばりさんの「川の流れのように」や「赤とんぼ」などの童謡を合奏し、お年寄りたちは手拍子を打つなどして聞き入った。



◆「いずみの原」今年度は優秀賞

第39回全国高校新聞コンクール(大東文化大主催)で、泉丘高校新聞部の「いずみの原」が優秀賞(全国で10校)に選ばれた。表彰式は平成22年3月5日、東京・築地の朝日新聞東京本社で行われた。同コンクールは高校新聞の「甲子園」と言われ、145点の応募があった。「いずみの原」は昨年度、最高賞の文

部科学大臣奨励賞に輝いた。

英語部員、優勝目白押し

8月23日、石川県文教会館で開かれた第4回県高校生英語ディベート大会で泉丘高校の5チームは1位から5位までを独占した。

また、9月14日、同会場での1年生対象の第4回英語スピーチコンテストで、泉丘の松浦未央子さんが優勝した。

さらに11月13日、金沢市での高文連ドラマフェスティバルの英語劇で泉丘が優勝、2年生の徳川詩織さんが最優秀女優賞を獲得した。徳川さんは同21日、静岡市での英語スピーチ東海北陸大会で優勝、2月9日の東京での全国大会では惜しくも2位だった。

1月25日、県文教会館での英語スピーチコンテストでは2年の城森萌さんが優勝した。

〈編集後記〉

平成21年度は泉丘高校全日制から354人、通信制から143人が卒業して一泉同窓会の仲間入りをした。県内では近年、全日制の生徒が減っているが、泉丘の通信制は16年度を境に生徒が少しずつ増えている。

文部科学省によると、通信制過程は全日制・定時制の高校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高校教育を受ける機会を与えるもので、今日では勤労青少年よりもさまざまな入学動機、学習歴を持つ生徒が多い。事実、4月の新入学だけでなく同月と6月、10月に転入学、編入学生を受け入れている。スクーリングなどで登校するのは年間25日ほどだが、レポート中心の自学・自習で頑張っている。

一泉同窓会では全日制、通信制の分け隔てなく会員に迎えており、新会員が各種同窓会行事に積極的に参加してくれることを望んでいる。(N)

「一泉」編集室

正村健三(泉丘4期) 中山一郎(同10期)
浅香以都子(同10期) 小林弘子(同12期)
題字・高川義一(一中53期・泉丘2期)